

佐賀空港へのオスプレイ配備ストップ!

駐屯地建設工事ゲート前

座り込み抗議行動

5月12日(日)午後1時50分

佐賀空港第4駐車場 集合

抗議行動は午後2~3時(予定)

◆座り込み抗議行動参加者大募集

座り込み抗議行動に参加を希望される方は、当日、「非暴力と安全」のための確認を行います。

◆座り込みに連帯して抗議の声をあげる人たち大歓迎



今年1月27日・2月24日・3月20日(写真上2枚)・4月13日(写真右)に「座り込み抗議行動」。4月13日は、ダンプと生コン車が終日ストップしました。

抗議行動を伝えるサガテレビのニュース
↓1月27日 ↓2月24日 ↓4月13日



主催: **オスプレイストップ! 9条実施アクション佐賀**

代表: 豊島耕一 佐賀大学名誉教授 メール toyosima@ta2.so-net.ne.jp

このチラシのダウンロードQRコード →
<http://ad9.org/osprey/action240512saga-osprey.pdf>



朝日新聞
DIGITAL

駐屯地工事に抗議の座り込み オスプレイ配備反対の市民ら

野上隆生 2024年4月17日 10時00分



思い思いの手作り看板を掲げ、駐屯地建設工事に抗議するオスプレイ配備反対の市民ら=2024年4月13日午後3時8分、佐賀市川副町犬井道、野上隆生撮影

佐賀空港(佐賀市)への陸上自衛隊オスプレイ配備に反対する市民グループは13日、駐屯地工事現場入り口で座り込みなどの抗議行動をした。佐賀県内のほか福岡、熊本県から約40人が参加。この日はダンプカーによる土砂の運び込み作業はなかった。九州防衛局は「工事の進捗(しんちよく)に応じて作業している」という。



抗議行動をしたのは、「オスプレイストップ! 9条実施アクション佐賀」(代表=豊島耕一・佐賀大名誉教授)のメンバーら。工事車両が出入りするゲート前で、「オスプレイ基地化反対」「オスプレイは全面撤去」などと書かれた看板やのぼりを立て、

約1時間にわたって座り込みやシュプレヒコールを続けた。

道路を隔てた反対側の歩道には、オスプレイ配備推進派という市民約10人が集まり、「座り込みは業務妨害だ」「用地買収は終わっている」などと発言。反対する市民に詰め寄り、緊迫する場面もあった。

豊島代表が「なぜ私たちはオスプレイ基地建設・空港軍事化に反対するのか」と題したチラシを推進派に手渡し、対話を求めたが、受け取りを拒否された。

駐屯地建設工事を巡っては、工事に反対する漁業者らが出していた工事差し止めの仮処分申請について、佐賀地裁が3月に却下の決定を出し、漁業者側が福岡高裁に即時抗告している。(野上隆生)

私の主張

テレビなどの大手メディアでは中国などの脅威が盛んに言われ、それを「抑止」するためには、軍備増強やアメリカとの軍事協力が必要という論調が主流だ。しかし軍事力で平和が守られるというのは本当か？ もちろん、少なくとも一時的にはそのようなケースもあるだろう。しかし今、私たちが目にしてる世界では、むしろ軍事費増が競争につながっている。

例えば、ウクライナの軍事費は2013年から2015年にかけてGDP比で倍増したが、ロシアの侵略を防ぐこ

への答え

久留米市 豊島 耕一 76

「攻められたらどうするのか」

とはできず、今も戦火にある。倍増ではなくもつと増やせば防げたのだろうか？ それは誰にも分からないが、軍事費増が平和を保障しなかったのは事実だ。
イスラエルは中東地域の軍事強国だが、平和や安全とはほど遠い状態にあるのは周知の通り。それどころか、その武器がガザでのジェノサイド（国際司法裁判所の裁定）を引き起こしている。

この基地が戦争を呼び込むものであることを自治会長たちが認識したということではないか。
「軍事力がなかったら外国から攻められたとき防げない」というのは分かりやすい理屈だ。しかし軍事力があれば確実に防げるわけでもないのは、先に述べた通りで、確実な方法などあり得ないのだ。ではどうするのか？

外交政策や人的・経済的交流で信頼醸成を図り、戦争の芽をつむ努力をすることは当然だが、それでも侵略されたら？ 私は、NHK「100分de名著」で紹介された、米国政治学者のジーン・シャープが提唱する「市民力による防衛」に答えがあると思う。簡単に言えば、他国が軍事的に占領しても、統治するためには全てにおいて住民の働きに依存せざるを得ない。そこで事前に訓練された市民の団結力でこれに非協力を貫き、統治の「コスト」を途方もなく高くするというものだ。それによって統治の継続を諦めさせる。つまり、非暴力による抵抗と撃退だ。

「辺野古」が佐賀まで来てしまった！

岸田内閣が進める日本の軍事化は規模も速度も尋常ではありません。故・斎藤文男・九大名誉教授は、2010年の久留米市での憲法記念日講演で、このままでは、たとえ「9条」が変えられなかったとしても、それはただ六法全書の中の「インクの染み」として残るだけになると警告されました[1]。残念ながら事態はその道筋を進みつつあります。対抗すべき市民運動の側もこれまでのやり方で止められると考えるのは甘く、いわば「モード転換」が必要ではないでしょうか。

つまり、私たちは憲法を「守る」というよりむしろ「実施」する活動が重要だと思います。私たちの地域のそのような課題の一つは、佐賀空港軍事化阻止を「私人による法の執行」として9条を自ら実施する行動ではないでしょうか。

[1] 録音 <http://ad9.org/people/AVfile/DM-10159t.m4a> 右のQRコード
同、文字起こし <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2024-02-12>



斎藤文男氏の講演の録音

佐賀オスプレイ反対、直接行動開始までの簡単な経緯

'23/8/29 地権者による訴訟 '24/1/9 有志、佐賀県公安委員会に対し県警が違法工事を取り締まるよう苦情申し出 1/19 阻止行動予告の記者会見 1/25 行動開始に際して佐賀県警本部長に手紙 1/27 工事ゲートでのダンプ阻止行動開始-「私人による法の執行」、**「オスプレイストップ！9条実施アクション佐賀」** 結成

右は佐賀新聞4月26日の「私の主張」欄に掲載された拙稿です。下のQRコードの2つのブログの文章を凝縮したものです。同紙の許可を得て転載。

(左) <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2024-04-13>
(右) <https://pegasus1.blog.ss-blog.jp/2023-07-23-1>

“なぜ私たちはオスプレイ基地建設・空港軍事化に反対するのか”



”殺傷力による防衛と市民力による『代替防衛』”

